



Chemiway  
丸善石油化学株式会社

# SUSTAINABILITY COMMUNICATION BOOK 2023



# くらしと産業の健全な発展のために

当社は安全操業を継続し、社会に求められる製品を安定的に供給することで、  
社会の持続的発展を支えるという重要な役割を担っています。

## CONTENTS

### 丸善石油化学の価値観

- 02 会社概要
- 03 丸善石油化学のあゆみ
- 04 拠点紹介
- 05 価値創造プロセス
- 06 実現するアウトカム

### 丸善石油化学の進むべき道

- 07 ステークホルダーの皆様へ ～トップメッセージ～
- 09 第7次中期経営計画
- 11 第7次中期経営計画のスタートに向けて

### 丸善石油化学の価値創造

- 13 石油化学製品による快適な生活の実現
- 17 地域社会の安全および活性化
- 21 働きやすく魅力ある職場づくり
- 25 環境分野への貢献

### サステナビリティの推進

- 29 サステナビリティの推進

### SPECIAL DIALOGUE

- 31 座談会“長期ビジョン”を  
自ら検討することで見えてきた未来

### ■ サステナビリティコミュニケーションブック2023の編集方針

当社は持続的に発展し、企業価値の向上を遂げるために、企業の社会的責任を全うし、ステークホルダーの皆様と良好な関係を維持し続けるための全社的な取り組みとして、CSR活動を行っています。

当社のCSR活動を皆様に広くわかりやすくお伝えし、ご理解いただけるよう本ブックでは、以下に留意して作成しました。

- グラフ、写真などを効果的に配置し、見やすく読みやすい誌面構成としました。
- 平易な言葉づかいを用い、業界、行政関係者だけでなく、一般の読者にもわかりやすい内容としました。
- 第三者保証により情報の信頼性を確保しました。

### ■ サステナビリティコミュニケーションブック2023の対象

期間：2022年4月1日から2023年3月31日まで（一部この前後の期間を含みます）

範囲：丸善石油化学の本社（東京都）、千葉工場・研究開発センター、機能性樹脂技術開発センター（千葉県）および四日市工場（三重県）における活動

### ■ 第三者保証



を付した定量情報については、独立した第三者機関であるデロイト トーマツ サステナビリティ(株)による保証を受けています。その結果として、右記のとおり「独立した第三者保証報告書」を受領しました。

Deloitte.  
デロイト トーマツ

### 独立した第三者保証報告書

2023年9月 29日

丸善石油化学株式会社

代表取締役社長 社長執行役員 岡崎 勉 殿

デロイト トーマツ サステナビリティ 株式会社  
東京都中央区銀座6-1-1 3F

代表取締役 長谷 辰香

デロイト トーマツ サステナビリティ 株式会社（以下「当社」という。）は、丸善石油化学株式会社（以下「会社」という。）が作成した「SUSTAINABILITY COMMUNICATION BOOK 2023」（以下「報告書」という。）に記載されている②の付された2022年度の定量情報（以下「サステナビリティ情報」という。）について、独立した第三者保証を実施した。

**保証の範囲**  
当社は、会社が採用した算定及び報告の基準（報告書CONTENTS及びサステナビリティ情報に注記）と関係してサステナビリティ情報を作成する責任を負っている。また、独立した第三者保証は、様々なリスクを軽減を結合するための意思と誠意と数値データの検証に関する科学的検証が下決定である等の保証により、固有の不確実性の影響を受ける。

**保証の独立性と品質**  
当社は、独立性、客観性、職業的専門性としての能力と公正性、守秘義務、及び職業的専門性としての職務に関する基本的原則に基づき、国際公認の保証基準である「職業会計士の保証業務」が定める独立性及びその他の要件を満たした。また、当社は、国際品質管理基準第1号「財務報告の監査及びレビュー」とその他の保証及び保証サービス業務を行う事務所（保証業務）に準拠して、職業的、職業的専門性としての基準を満たすための追加の保証業務に関する文書化された方針と手続を定め、国際的な品質管理システムを維持している。

**保証の範囲**  
当社の保証は、当社が実施した手続及び当社が入手した証拠に基づいて、サステナビリティ情報は、対する算定学的検証の結果を表明することにある。当社は、「国際保証基準第3000番の財務情報（監査又はレビュー）」の保証業務、保証基準-保証基準第3410番「監査対象データ報告に対する保証業務」、保証基準-保証基準第3410番「監査対象データ報告に対する保証業務」に基づいて、保証業務を実施した。

当社は実施した手続と、職業的専門性としての能力に基づいて、期間、プロセスの範囲、実務の検証、分析の手法、算定方法と報告方法の検証の保証、報告書の基礎となるデータと検証、及び以下を含んでいる。

- 会社の保証方法が、適当であり、一貫して適用されていること、手続は保証の基礎となったデータのテスト又は見極めの実施を定めていること。

- データの信頼性、データの取扱い、データと検証との関係に由来する不確実性を軽減するため、算定プロセスの検証、算定方法と報告方法の検証を含む手続による、事業の検証を実施した。

保証業務の保証業務で実施する手続と、国際的な保証業務に関する手続とに基づいて、その種類と実務的検証が異なる、その保証業務は、その結果、当社が実施した算定学的検証で得た保証基準は、自社の保証業務を実施したとされは認められたい保証基準とは異なる。

独立した第三者保証  
当社は実施した手続及び入手した証拠に基づいて、サステナビリティ情報が、会社が採用した算定学的検証の基準を適用して作成されていることと保証される事項に関する保証業務は、保証業務とは異なる。

以上

Member of  
Deloitte Touche Tohmatsu Limited

## 会社概要

企業使命は、当社が良き社会の一員として存在、活動する究極の目的であり、常に追い求めるべき姿です。その実現に向け、4つの経営方針を定めています。

### 企業使命

化学技術を基盤とし、  
くらしと産業の健全な発展に貢献する

### 経営方針

適正かつ安定的な利益を追求する  
安全ナンバーワン企業を目指す  
顧客に信頼される価値を創造する  
未来を見据えて変革し続ける

### 行動基準【CC10 : Chemiway Commitment 10】

当社を取り巻くステークホルダーそれぞれに対する誓いとして策定した10の行動基準です。当社が社会的責任を果たし継続的に成長するため、一人ひとりがCC10に沿って活動することを徹底しています。



売上高  
**3,881** 億円  
(2022年度)



経常利益  
**53** 億円  
(2022年度)



従業員数  
**1,109** 名  
(2023年3月31日現在)

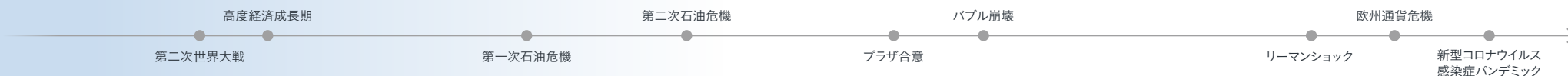


拠点数  
**4** 拠点  
(2023年3月31日現在)



# 丸善石油化学のあゆみ

## 社会の動向



# OUR HISTORY

SUSTAINABILITY COMMUNICATION BOOK

### 創立前史 - 創立

#### 「丸善石油化学」の設立

1933年「丸善石油株式会社（丸善石油）」創立。アルコール・ケトン製造装置は自社技術による国内初の石油化学プラントであった。1959年 丸善石油の石油化学部門を分離独立し、「丸善石油化学株式会社（丸善石油化学）」が設立された。

1957 アルコール・ケトン製造装置完成



### 草創期

#### エチレンプラントの建設・運転の開始

1964年に第1エチレン製造装置、1966年に第2エチレン製造装置、さらに1969年には第3エチレン製造装置が完成。石油化学の発展に寄与するとともに、当社発展の礎となった。

1964 第1エチレン製造装置の完成



1966 第2エチレン製造装置の完成



1969 第3エチレン製造装置の完成



### 飛躍期

#### 製造装置を次々に建設

当社のエチレン生産量は累計500万tを達成。一方、丸善石油から継承したアルコール・ケトン事業の拡大、化成品の製造装置も次々に建設、新たな研究拠点として「研究所」を竣工したのもこの頃である。

1978 新たな研究拠点として「研究所」を竣工



### 安定・拡大期

#### 化成品の増強、機能化学品の始動

1991年に京葉エチレン（株）（KEC）を設立、第4エチレン製造装置が完成。エチレン生産量の増大とあわせて各種製造装置も増強された。2000年には機能化学品部が発足、半導体用フォトレジスト原料などの製造装置も新設され始めた。

1991 エチレン・プロピレンなどの製造販売を目的とする「京葉エチレン（株）（KEC）」を設立

1994 KECの第4エチレン製造装置の運転開始



2005 社長を委員長とする「CSR委員会」を発足、「企業の社会的貢献（CSR）活動」に着手する

2006 行動基準「Chemiway Commitment 10：CC10」を制定



2008 第3エチレン製造装置の国際競争力強化工事の完了

### 変革期

#### 将来に向けた変革

2016年にコスモエネルギーホールディングス（株）の連結子会社となる。2度の、第3エチレン製造装置の分解炉を大型炉へ更新、プロピレン精留設備の生産開始、機能性樹脂の開発に特化した機能性樹脂技術開発センターの新設など、将来に向けた変革を続けている。

2016 コスモエネルギーホールディングス（株）の連結子会社となる

2020 第3エチレン製造装置の大型分解炉への更新工事完了



2022 プロピレン精留設備の完成



2022 半導体用EUV（極端紫外線）レジスト向け原料ポリマー量産設備の完成



2023 機能性樹脂の開発体制強化のため研究所を分離し、研究開発センターと機能性樹脂技術開発センターを新設



## 拠点紹介

### 千葉工場

2基のエチレンプラントを擁する  
国内屈指の工場

 **660名**  
(2023年4月1日現在)

千葉工場は、京葉工業地域の市原市五井地区に位置する、石油化学コンビナートの中核工場です。1964年に操業を開始し、現在、2基のエチレンプラント(3EP、4EP)を稼働、エチレンやプロピレンなどの基礎化学製品やスチームなどのエネルギーをコンビナート内各社に安定供給しています。また、当工場は、塗料やインクの原料となる化成品、半導体製造に用いられる機能化学品といった、人々の暮らしに欠かすことのできない素材の製造も行っています。



執行役員 千葉工場長  
山本 雅則

千葉工場では、安全・安定操業の継続を第一の方針として、リスクアセスメントなどの活動を活発に行い、事故や災害の芽を摘む努力を積み重ねています。また、廃棄物削減や省エネルギー推進により環境負荷の低減に取り組むとともに、高品質な製品の安定供給によりお客様との信頼関係が永く続くよう、品質の改善活動を継続していきます。これらの安全・環境・品質の活動を推し進めるためにも、生き生きと輝ける人材づくりと風通しの良い風土づくりに努めています。

### 四日市工場

西日本エリアで安定供給を継続

 **73名**  
(2023年4月1日現在)

四日市工場は、三重県四日市臨海地区の霞コンビナート内に位置し、エチレンを原料とした酸化エチレンおよびエチレングリコールの製造を主体とする工場として1975年に操業を開始しました。その後、製造能力の増強を行うとともに、酸化エチレン付加設備を拡充し、洗剤などに加工される界面活性剤、セメント用の添加剤など、各種産業用途の基礎素材を製造しています。



四日市工場長  
今西 和弘

四日市工場では、安全第一を基本理念に、従業員一人ひとりが社会的責任を理解し、信頼を高める行動に努めています。さらに、さまざまな災害を想定し、特定したリスクを低減する未然防止活動や災害想定訓練を重ねています。また、温室効果ガスの副生が少ない最新技術を導入し、環境品質方針のもとに、継続的改善を進め、管理レベルの向上に努めています。

### 研究開発センター

コーポレート研究開発組織  
として再始動

 **33名**  
(2023年4月1日現在)

研究開発センターは、2023年度より、機能性樹脂に関する機能が機能性樹脂技術開発センターとして分離し、コーポレート研究開発組織として再始動しました。

主な業務は、保有原料などを活用し、顧客・市場ニーズに対応する「付加価値を創造した新製品開発」、持続可能な発展を目指した「新規事業・技術開発」などであり、競争力のある製品開発から未来を見据えた事業・技術開発まで、社外連携を含めて、幅広く実施しています。



研究開発センター長  
林田 能久

研究開発センターでは、石油化学事業の競争力強化につながる新製品開発に加え、CO<sub>2</sub>排出削減・カーボンニュートラル社会実現に向けた石油資源の有効活用や要素技術の検討を進めています。また、石油化学事業・機能化学品事業に続く、丸善石油化学の未来を見据えた新規事業創出を目指し、大学などとの共同開発により、特徴ある技術を生み出しています。これらの活動を通じて、研究開発力をベースに、社会と丸善石油化学の持続的発展に向けて挑戦を続けています。

### 機能性樹脂 技術開発センター

機能性樹脂に特化した開発から  
製造まで一貫通貫の組織

 **88名**  
(2023年4月1日現在)

機能性樹脂技術開発センターは、2023年に研究所(現 研究開発センター)から分離独立しました。その目的は、機能性樹脂の開発・製造・品質・技術の管理強化、および営業本部・機能化学品部との連携強化です。

対象であるレジスト用樹脂製品ならびに新規材料などについて、開発から製造まで一貫通貫で管理・運用できる体制を整え、かつ製販の連携を強固にすることで、よりスピーディーな対応を目指します。



機能性樹脂技術開発  
センター長  
武智 和

機能性樹脂技術開発センターでは、今後さらに成長が見込まれる機能化学品分野(レジスト樹脂事業)の拡大を目指し、最先端技術に対応したレジスト樹脂の開発強化に加え、高度な製造技術、分析技術にて洗練された製造管理、品質管理を実現することにより顧客満足度向上に努めています。対象となる化学物質および製造プロセスの安全性はもとより、環境、品質に与える影響を評価することも技術開発業務の一環として捉え継続的に取り組んでいます。

機能性樹脂  
技術開発センター

本社

千葉工場

研究開発センター

四日市工場

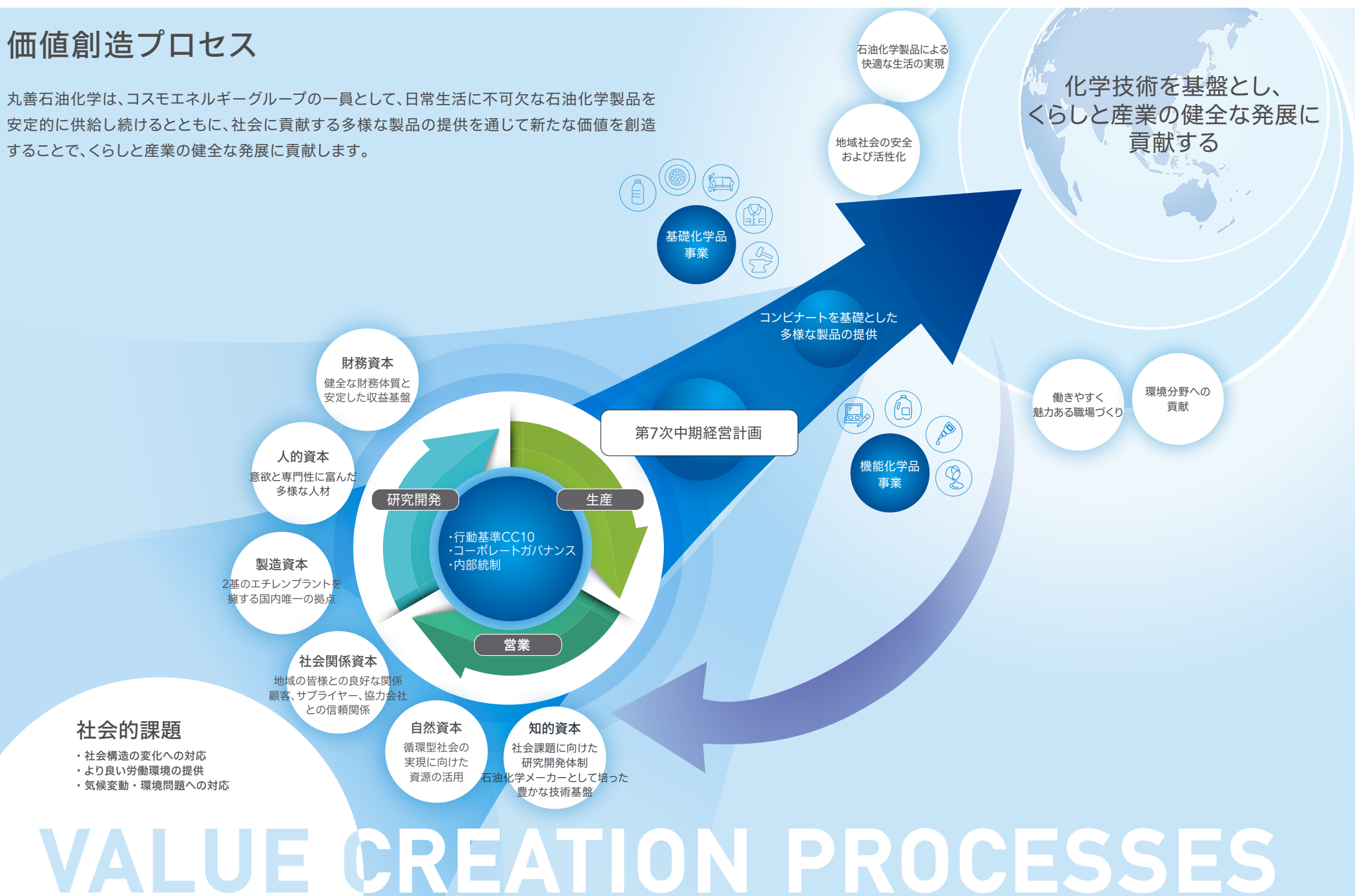
# OUR LOCATIONS

# 価値創造プロセス

丸善石油化学は、コスモエネルギーグループの一員として、日常生活に不可欠な石油化学製品を安定的に供給し続けるとともに、社会に貢献する多様な製品の提供を通じて新たな価値を創造することで、暮らしと産業の健全な発展に貢献します。

化学技術を基盤とし、  
暮らしと産業の健全な発展に  
貢献する

SUSTAINABILITY COMMUNICATION BOOK



# VALUE CREATION PROCESSES

# 実現するアウトカム

くらしと産業の健全な発展への貢献を、社会的課題の解決を通じて実現します。



# OUTCOMES TO BE ACHIEVED